

カネマツ鋼材、新工場が稼働

超難作材加工など強化

カネマツ鋼材（本社・石川県白山市福留町222番地、社長・小林芳郎氏）が本社近くの用地で建設してきた「第8工場」はこのほど完成し、北陸3県で第1号機となる唐津鉄工所製のCNC旋盤「LT-2型」が本稼働を開始した。

同社は、構造用鋼や断・加工機を多数設置し、難削材の加工ニーズに幅広く対応してき13年12月期の売上高は63億円。最新鋭の切加工分野をさらに強

化するため、本社近くを取得していた3300平方メートルの用地に、5月より「第8工場」の建設を進めてきたもの。

ここに設置したCNC旋盤は径1千ミリ、長さ6千ミリまでの加工が可能で、発電プラント

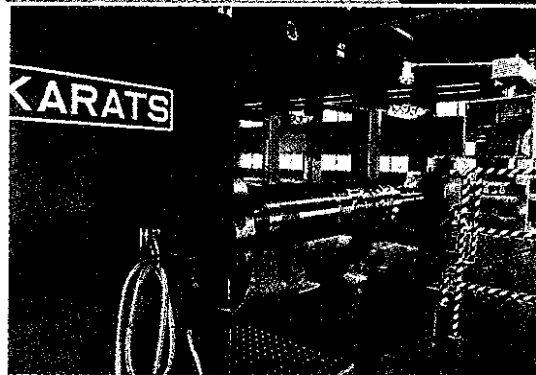
向けのシャフトなど超難作材の製作を得意とし、要員2人で順調に稼働している。

投資額は建物に2億5千万円、設備に1億5千万円の計4億円。また2番目の設備と

2日に落成式を挙行了した同工場は1980平方メートルの規模があり、JFEシビルのメタルビル工法で施工された。天井走行クレーンは20メートル×2基、10メートル×2基の計4基。

して、5面加工機（三菱重工製でテーブル長さ6メートル）を1基導入する計画だ。既に発注を済ませ来年3月より稼働開始の予定。

なお工場内には、新規の加工機導入に備え十分なスペースが確保されており、今後の動向が注目される。



完成した第8工場①と、唐津鉄工所製のCNC旋盤